【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成29年7月27日(2017.7.27)

【公開番号】特開2015-21124(P2015-21124A)
【公開日】平成27年2月2日(2015.2.2)
【年通号数】公開・登録公報2015-007
【出願番号】特願2014-139065(P2014-139065)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｊ　3/02　(2006.01)
Ｇ０３Ｇ　9/087　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｊ　3/02　ＣＦＤＢ
Ｇ０３Ｇ　9/08　３８１
Ｇ０３Ｇ　9/08　３３１

【手続補正書】
【提出日】平成29年6月16日(2017.6.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ラテックスを不安定化するカチオンを含むポリエステル樹脂を有機溶媒に溶解して溶液を作成することであって、ここで、ラテックスを不安定化する前記カチオンは前記溶液の不溶性部分に存在し、前記不溶性部分は溶解工程後の２時間～９６時間の待ち時間後に形成される、前記作成することと；
前記待ち時間後に、濾過、デカンテーション、遠心分離、またはこれらの組み合わせにより、ラテックスを不安定化する前記カチオンを除去することと；
前記ポリエステル樹脂の前記溶液を中和することと；
中和した溶液に、十分な量の水を加えてエマルションを生成することと；
前記エマルションから前記有機溶媒の一部を除去し、前記ポリエステル樹脂のラテックスを作成することと
を含む、ラテックスを製造するプロセス。
【請求項２】
前記ポリエステル樹脂が、アモルファス性である、請求項１に記載のプロセス。
【請求項３】
前記ポリエステル樹脂が、結晶性である、請求項１に記載のプロセス。
【請求項４】
前記有機溶媒が、メチルエチルケトン（ＭＥＫ）、イソプロパノール、またはこれらの組み合わせを含む、請求項１に記載のプロセス。
【請求項５】
ラテックスを不安定化する前記カチオンが、一価カチオン、二価のカチオン、またはこれらの組み合わせを含む、請求項１に記載のプロセス。
【請求項６】
前記一価カチオンが、リチウムイオン、カリウムイオン、ナトリウムイオン、およびこれらの組み合わせからなる群より選択される、請求項５に記載のプロセス。
【請求項７】

前記二価のカチオンが、スズイオン、鉄イオン、銅イオン、カルシウムイオン、マグネシウムイオン、および亜鉛イオンからなる群より選択される、請求項５に記載のプロセス。

【請求項８】

ラテックスを不安定化する前記カチオンが、カリウムイオンとスズイオンとの混合物を含む、請求項１に記載のプロセス。

【請求項９】

ラテックスを不安定化するカチオンを含むポリエステル樹脂を有機溶媒に溶解して溶液を作成することと；

前記溶液を熟成させて、ラテックスを不安定化する前記カチオンを含む不溶性部分を形成することであって、ここで、前記不溶性部分は溶解工程後の２時間～９６時間の待ち時間後に形成される、前記作成することと；

前記不溶性部分を除去することにより、前記待ち時間後に、濾過、デカンテーション、遠心分離、またはこれらの組み合わせにより、ラテックスを不安定化する前記カチオンを除去することと；

除去工程後に少なくとも１つのポリエステル樹脂のラテックスを形成することと

を含む、ラテックスを製造するプロセス。

【請求項１０】

ラテックスを不安定化する前記カチオンが、カリウムイオン、錫イオン、またはこれらの組み合わせである、請求項９に記載のプロセス。

【請求項１１】

前記ラテックスからトナーを形成することを更に含む、請求項９に記載のプロセス。

【請求項１２】

カリウムイオン、錫イオン、またはその両方を含むポリエステル樹脂を有機溶媒に溶解して溶液を作成することと；

少なくとも１つのポリエステル樹脂の不溶性部分を除去することであって、ここで、前記不溶性部分はカリウムイオン、錫イオン、またはその両方を１０％～５０％含み、前記少なくとも１つのポリエステル樹脂の不溶性部分は、溶解工程後の２時間～９６時間の待ち時間後に形成され、前記不溶性部分を除去することは、前記待ち時間後に、濾過、デカンテーション、遠心分離、またはこれらの組み合わせを含む、前記除去することと

を含む、ラテックスを製造するプロセス。

【請求項１３】

前記不溶性部分はカリウムイオン、錫イオン、またはその両方を１０％～３５％含む、請求項１２に記載のプロセス。